

NO.181

全 仏

10/47



青森大会ポスター

第二十回全日本仏教徒会議

青森大会開催！

「みほとけのもと、みんなで手をつなごう」の大会スローガンのもと、いよいよ十月二日、三日、青森市民会館を主会場に開催される。今春より主催青森県仏では東会長を先頭に事務局県下役員一丸となって着々進められてきた準備もすっかり整い、あとは前夜の会場飾り付けを終えれば開幕を待つだけである。

前評判は上々で予想参加者人数をかなり上回ると思われ、県外参加者も孝道教団の六十数名をはじめ、梵人会五十数名、豊山派三十数名、千葉県仏三十数名、新潟、静岡、京都各府県仏の二十数名など四百二十名を数えている。特に今大会には、本土復帰をした沖繩県から沖繩仏教会の代表も参加され、ともども復帰を慶び合うことになっている。

大会は十月一日の前夜祭に始まり、午後六時半より青森市民会館において、青年層を中心に講演会がもたれ、高田好胤薬師寺管長が講演する。

大会第一日（十月二日）は前夜につづき市民会館において、九時半より式典。法要のあと、佐藤泰舜大会総裁、鈴木悟

全仏理事長、楠美知行大会実行委員長の挨拶。インド、ネパール両国大使に医療基金の贈呈、インド日本寺建立寄付金の贈呈をし、功労者の表彰につづいて、十一時から高田好胤殿下の記念講演「みほとけ」がある。

そのあと、十一時半から総会を開き、中食をはさんで午後一時より三部会に分れて提出十三議案について討議する。

中食休憩時には、高橋竹山師の津軽三味線ほか郷土芸能が披露される。

大会第二日（十月三日）は会場を市内蓮華寺（日蓮宗）に移し、午前九時から総会を開き、各部会の報告、議案の質疑採決をし、宣言決議文を発表採択して、十一時の閉会式をもって大会を終了することになっている。

観光希望者は一時から五組に分かれてそれぞれの目的地に向け出発する。なお、大会の趣旨、部会、提出議案はそれぞれ次の通りである。

一趣旨

われら仏教徒は、みほとけの教えのもと、中道の慈悲の実践により、内には人

間性を尊重した人心調和の和合社会建設と外には仏教を通じた相互理解に基づく国際間の親善と交流に努力を続けております。

今年国民待望の沖繩本土復帰実現により、同胞沖繩県民に対して心からなる敬意と慶祝の意を表するとともに、日本仏教徒として新たに使命の重大性を痛感するものであります。

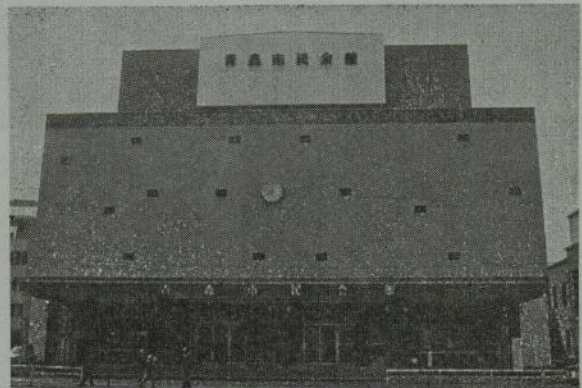
昨今、高度経済成長と物質文明偏向により、美しい環境保全と健全な人間福祉の問題が真剣に問直されており、折から、われら仏教徒は正しい信仰による心の安らぎを得て豊かな明るい社会づくりに貢献したいと念願するものであります。

ここに第二〇回全日本仏教徒会議青森大会をみちのくで開催するにあたり、大会スローガン「みほとけのもと みんなで手をつなごう」の旗じるしのもと、あなたの積極的な参加と発言を期待いたします。

一部会

第一部会（実践部会）

青森市民会館



全一仏教運動の高揚について

第一部会（檀信徒部会）

寺院と檀信徒のつながりについて

基調講演 青森市民会館

日蓮宗管長 金子日威殿下

第三部会（婦人部会）

幸福な家庭づくりは仏教精神で

提出議案一 青森市蓮華寺

提出議案一

第一部会

①仏教徒は聖徳太子のお言葉「合掌ナム仏」を全一行動として採用しよう

提案団体一青森県仏教会 提案説明

者一八幡憲秀氏



蓮華寺

- ②未加盟の各宗派及び県仏教会に対して全仏に参加する運動の展開
提案団体―神奈川県仏教会 提案説明者―柳下隆侃氏
- ③各国における戦災および天災による難民等に対する救援活動を展開しよう
提案団体―全日本仏教会 提案説明者―柳了堅氏
- ④南太平洋地域の遺骨の収集を促進しよう
提案団体―東京フデイストクラブ 提案説明者―内田大寛氏
- ⑤仏教徒として老令者福祉を計ろう
提案団体―仏教徒政治同盟 提案説明者―井上真六氏
- ⑥韓国における仏教図書館設立に対して

- 贈書運動に協力しよう
提案団体―全日本仏教会 提案説明者―柳了堅氏
- ⑦インド日本寺の完成に協力しよう
提案団体―国際仏教興隆協会 提案説明者―巖谷勝雄氏

第二部会

- ①寺院を敬尊の御精神を体得し、人生を学ぶ伝道中心の道場としよう
提案団体―青森県仏教会 提案説明者―名畑礼造氏
- ②仏教徒は地域仏教会と協力して仏教を興隆するため全国組織をつくらう
提案団体―新潟県仏教会 提案説明者―池田忠蔵氏

- ③第一回全国檀信徒研修大会を開催しよう
提案団体―岐阜県仏教会 提案説明者―大石好文氏

第三部会

- ①仏縁を感謝して幸福な家庭を築こう
提案団体―全日本仏教婦人連盟 提案説明者―三輪美津子氏
- ②仏教精神の体得は善薩行の実践から
提案団体―孝道教団 提案説明者―宮崎その氏
- ③女性に仏教精神を体験させよう
提案団体―青森県仏教会 提案説明者―佐藤妙昭氏

新理事長に鈴木悟師

(真宗大谷派宗務総長)

前理事長故星谷慶縁師逝去による後、大谷派財務局長に就任以来、京都、七任理事長は、去る九月十八日の常務理事会において現理事鈴木悟師(八〇)を尾各大谷派教務所長、審問院長などを選出決定した。歴任し、昨年六月から本年二月まで大谷派財務長をつとめ、さる九月七日開かれた大谷派臨時宗本会議で新宗務総長に選出された。

残任期間は明年十一月までである。鈴木理事長は、名古屋市港区の真宗大谷派正端寺住職で、昭和二十三年に、なお、全仏事務局内の移動はない。

常務理事会開かる

去る九月十八日、東京本願寺記念館において常務理事会が開催され、次のような議案が提出、審議された。

議案第一号 第二〇回全日本仏教徒会議青森大会にて
原案通り承認(詳細は別記事)

議案第二号 沖縄県仏の全仏加盟申請について
加盟承認(詳細は別記事)

議案第三号 全仏機構改正第二次案について
「全仏」九月号に既報の通り、第二次案が提示され、常務理事会で受理された。なお、この改正案の実施は重要な問題であり、理事会等で審議を重ね、具体案を練ることとなった。

議案第四号 理事長の選出について
真宗大谷派宗務総長鈴木悟師を選出。

議案第五号 全仏税制特別委員会の設置について
委員会設置を承認。今後、税問題に積極的に取組むことになった。

議案第六号 韓国における仏教図書館設立に対し贈書方協力依頼について承認。

沖繩仏教会が全仏加盟

本年五月に本土復帰した沖繩県の仏教会は、本会の加盟呼びかけに基づいて、去る九月七日付文書をもって、加盟申請がなされ、十八日開催の全仏常務理事会において承認された。沖繩仏教会の所属寺院数は現在二十一ヶ寺である。これで全仏加盟団体は宗派五十八、県

仏三十八、各種団体十八の計一四四団体となった。

団体名 沖繩仏教会

事務局 沖繩県那覇市安里三八神徳寺内

会長 田原惟信

那覇市辻一四一 真教寺

事務総局録事（九月）

- 二日 故星谷理事長宗派葬
- 四日 大会議案審査委員会
宣言決議文起草委員会
- 五日 大会プログラム編集会議
- 七日 大蔵省訪問（税制特別委）
- 八日 宗連理事會
- 八日～九日 青森大会出張打合
- 十一日 全仏九月号発送
- 十一～十二日 職員研修會
局内會議
- 十八日 常務理事會 大会幹事會
- 二十八日 局内會議

沖繩の宗教事情

藤井 深忍

沖繩に仏教が伝来したのは今から七〇〇年程も前のことで、禅鑑という宗派や国籍も不明な僧が那覇に漂着し、時の琉球国王英祖の崇信を得て蒲添の地に極楽寺を建立したのに始まる。

その後一〇〇年程して日本より頼重法印なる僧が来島し那覇に波上山護国寺を建てて真言宗を伝え、更に一〇〇年後京都より芥臨禪師が来たりて尚泰久王の帰依を受けて、首里に広嚴、普門、天寺の三ヶ寺を建立して臨済宗を伝えた。この

頃より沖繩の仏教は尚泰久、尚徳、尚円尚真、尚元、尚永と歴代国王の帰依と被護を得て次ぎ次ぎと多くの寺院が建立され、すこぶる隆盛を極めていたが、更に慶長八年には浄土宗の袋中上人が支那へ留学の途次難船して那覇に寄住し尚寧王の帰依を得て浄土念仏を伝えたるも、慶長十四年島津藩が琉球侵攻するや、その政策により仏教寺院の建立や修復は禁止され、僧侶の修学や布教も圧制を受けて次第に沖繩の仏教は衰退の憂目を見ると

共に、支那より伝わってきた儒教や道教の影響を多分に受け、更に古来よりの土俗慣習とも混淆して一種独特の沖繩仏教の形体を造って来た。併し明治九年になるや真宗大谷派の田原法水師が来沖し、念仏禁止の法難の中で浄土真宗の布教を密かに始め、やがて真教寺を建立し、明治十二年には本願寺派の大河内正念師が来島して布教を開始、その後数代を経て菅深明師が大典寺を建立、これまで殆んど布教活動のない沖繩仏教界に東西本願寺のみが活発な布教伝道と共に子女の教育や社会事業を行なっていた処に昭和十三年浄土宗が来りて布教を始め、沖繩仏教界も漸く活気を呈すかに見えたが、去る沖繩の大戦ですべてが灰燼に帰して仕舞ったのである。

そして戦後数年、いづれの寺院（妙心寺派十一、東寺派八、本願寺派三、大谷派一、鎮西派一、身延派一）の僧侶達は本来の活動が出来ず、他の公職や仕事に従事し居たるも、昭和二十六年ごろより次第に米軍下げの衣服で法衣を作り、草木の実をつないで念珠とし、テントや茅葺き小屋に手書きの御本尊を安置して薬菴を利用した仏具を置いて何となく寺院としての活動を始めた。その後日本との交流、渡航が可能となるや漸次に仏具經典、法衣等を手に入れて法務や布教活動に従事しつつ戦没者の遺骨収集やその慰霊供養に奉仕し乍ら、あらゆる困難を乗り越えて、それぞれの寺院の復興再建に努力してきたのであるが、本格的に復興

那覇市大典寺本堂



再建された寺院は未だ十指にも足らぬ状態である。

抑々沖繩の既存教団や寺院には戦前より本土のような檀信徒制度がなく、またあっても唯形式的なもので沖繩の人々には宗派観念もなければ勿論お寺を維持する義務的な観念は全然ないので寺院の建

立、再建は誠に困難で本土の寺院のように檀信徒の浄財に頼る事は殆んど不可能で、任職の対人関係による募財も今の世相では困難で、所属宗派の援助も仲々であれば、寺院の不動産でも分割処分するより方法がなく、誠に至難な事である。

沖繩の人々の殆んが祖先崇拜を宗教と考え、それが信仰と想っている。即ち各自の家で祖先や先亡者の位牌を祀り、古来よりの慣習に倣って年忌や祭事を行なっているだけで本尊もなく、特定の宗派や教派の教理に基づく信仰というものは全然持っていない。従ってその所属寺院とか所属宗派という決まったものがなく、葬式や法事もその時の都合次第で何宗であろうかが何処のお寺であろうが構わず、唯だ坊さんであれば、お経さえ読んでも

併し葬式や年忌法要は必ず僧侶に依るとは限らず、全然宗派や教派に関係なく土俗の信仰や慣習に倣って低級なユタ(拝み婆さん)に依る年忌や祭事を行なっているのがその殆んどを占めているようである。

先ず沖繩の人にあなたは仏教かキリスト教かと尋ねると、その九割が仏教だと云う。併しそれは信仰に依るものではなく単に祭事形式が仏教のそれに準じているからであり、その祭事形式も純然たる仏式ではなく儒教や道教の形式が大いに影響している点が誠に多いのである。

沖繩には古来より低級な土俗信仰や迷信が広く一般人の日常生活の中に根深く浸透して居り、それに加えてユタや三世相(易者)が跋扈し死者の入棺、出棺、葬儀、墓の開閉などの時刻やそれに立会う人々の是非、法事や祭事或は慶事の日取りから祖先と関係して子孫の吉凶禍福の予言から占い、そしてそれに対する祈禱やらまで行ない、その人心に及ぼす影響の非は大なるものである。

戦後沖繩にも数多くの宗派や教派が渡来し、中でもキリスト教関係は戦前わずかに数ヶ所の教会しかなかったのに現在では一〇〇余の教会が全島に点在して盛んに神の教えを宣布しており、又、天理教、生長の家、創価学会、立正佼成会、世界救世教と御利益主義の新興教団は互いに縋を削り、そして最近では出雲大社や成田山の分院も進出して、沖繩の既存宗派はその影が薄くなったような感であ

る。沖繩のような低級な土俗信仰と迷信の多い処は御利益主義の新興教団にとつては、その伝道は容易であるのが、正しい信仰と真実の教を説く既存教団にとつてはその布教も誠に困難である。

寺派を初めとして大谷派や浄土宗が沖繩の人々に真実の教えを伝えんと努力なる施策を以って沖繩開教に乗り出された事は誠に喜ばしい事であり、その成果を期待するものである。(沖繩県那覇市、本願寺派大典寺住職)

生命科学と仏教



精神とは何かの
一つの視座

その科学と仏教の観方

真 溪 義 貫

(上)

(一) 生命科学と「仏教」の第一回シンポジウムでは、生命現象の仕組を分子生物学者から学習し、仏教学者から仏教の生命観を説明して、一同で討論を重ねた。ライフ・サイエンスという学問は、極最近華々しく登場したものにだけに、次々と新しい実験や研究の発表が行なわれていて、昨年のシンポジウム以後一年間に生物学者ばかりでなく、所謂システム科学の体制によって著しい発展を見せた。生命の起源についても、従来の随所に見られた空間も可成埋められて来たし、今や或種の生命が人工合成される方向へと進んで来た。活性DNAの合成、人工リポソームの成功、リボヌクレアーゼ(リボ核酸分解酵素)の合成、蛋白質の合成、遺伝子の化学的合成、さらには試験管ベビーに至るまで、生命合成への可能性が示唆されて来たかと思えるのである。只、これらの実験はバクテリアや下等な生命を実験対象として得たものであって、果して人間にあてはまるかどうか、特に他の生物と著しく区別されると思われる人間の精神活動を、単に物質的所産にはかならないと割切れるかどうか、まだまだ多くの人々の疑問とするところである。もちろん、人間も生物の一種であり、その精神活動も、一般動物の持つ神経系の働きと本質的には異なるものではないとしても、人間の精神活動が他の動

昭和47年10月1日

物より格段の複雑さと精緻さを持ち、実質的に異なるものだとする向もある。従ってこのことを一時預りとして、生命科学の現段階で、積極的にこの一時預りの内容を究明することは「生命科学」にとっても重要なことであるし、仏教にとっても科学的な諸理論を学習理解しつつ、例へば物心一如論などを現代的に大系づけることが大切だと思う。今年はこの「心」の問題を採り上げた所以でもある。

(2)

「精神の座」については、一種の思想史というべきものがある。今、時実利彦教授の「脳の話」の中から要点だけを紹介して見る。教授によれば、旧石器時代の後期（二万五千年前）の原始人は、肉体の他に、霊魂が存在し、生きている間はこれが肉体に宿っていて、死ぬと肉体から抜け出して鳥になるといふことが、ラスコー洞窟の壁画によって想像されるし、エジプト王朝の頃になると、霊魂は心臓に、バビロニア王朝時代には肝臓に、更にギリシヤ文明に移ると精神の座は脳にあるとする説が生れた。その代表者はヒポクラテスである。さらにおくられてプラトン、脳と脊髄説を唱え、その弟子アリストテレスは師に背いて心臓説を主張した。更にアレキサンドリア時代には、脳の中には脳室があり、これが心の住みかであるとし、ローマ文明時代にはガレノスの想像、理性、記憶は脳、実質に、感覚、運動は脳室に貯えられた



「精神の気」という霊気によるものだとした。その後千数百年間は殆ど思想的発展は見られないが、これはキリスト教やマホメット教の圧力によるものであり、霊気という得体の知れないものが脳室に局在するという程度の思想に抑止されていた。ルネサンスを迎える医学界においてすら、例えばベザリウスを中心とする素晴らしい解剖学の発達にもかかわらず「精神の座」に関する限り、依然として脳室局在論の域を出なかった。即物的機械論者のデカルトすらも、霊気存在を認めていたという。しかし、十八世紀になると脳実質そのものを精神の座とする提唱が行なわれ、ガルの骨相学は大脳皮質局在論を生んだが、このような精神を

—— 予代田トラベル が贈るインド・ボロブドールの旅 ——

各国合同成道会インド仏跡参拝団

主催：(財)国際仏教興隆協会

昭和47年11月29日～12月16日

参加費用 345,000円

ボロブドール遺跡見学の旅

主催：(財)全日本仏教会

昭和48年2月26日～3月8日

参加費用 280,000円

ローンのご使用が出来ます。資料ご請求は下記宛へ

—— 指定取扱旅行会社 ——

国際旅行業協会会員
運輸大臣登録一般154号

株式会社 予代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)
電話 407-3612(代)・400-5100 郵便番号 107

物質の所産とする説は、宗教々義に反するとして弾圧を受けたし、一方学問的にも大脳皮質論に対し、全体論が対立し、漸く大脳皮質と、脳の内部構造およびその働きに対する研究が一段と高まって現在に至っているということである。

今回のシンポジウムで若林教授は、ロシアの生理学者の父といわれる「セチノフ」の行なった実験、即ちカエルの頭を切りとり、下肢を酸の溶液につけると、その刺激で下肢が反射的に屈曲する。更に脳幹を刺激しながらこの反射運動を起こして見ると、運動が起る時間がおく

昭和四十八年版

仏教徒手帳

申込み受付中

全仏総務局では、来年度の仏教徒必携「全仏手帳」を左記要領にて、十一月中旬に発行することになりました。お申込みは、全仏総務局（東京都台東区西浅草一ノ五ノ五）まで。

体裁 縦十二・二cm×横八・二cm
表紙 特製合成皮革
内容 三帰依文、四弘誓願、宗門聖日、宗派・都道府県仏・団体役員住所録、忌日早見表、各県宗教学法人事務主管部局一覽その他

定価 二五〇円、送料別実費

て来る。即ち脳幹には脊髄の反射運動を抑制するメカニズムがあることの説明であり、このことは、今日、脳を研究し、理解する上に非常な大切な基本的な事項とされている。更に脳定位固定装、脳波の発見で「意識の座」を脳幹の網様体に求めることに成功し、大脳皮質の深層にある大脳縁辺系と表層の部分の大脳皮質との二重構造によって二つに異なる心の葛藤が人間行動を規定するという現在の研究段階に到達したようである。

(3)

東洋では、例えば、陰陽五行説などというものがあり、神は「心臓」に魂は「肝」に、志は「脾」に精は「腎」に魄は「肝」に宿るといふものであるが、ここでは脳は全く無視されている。

さて仏教では「心」をどう考えてきたのだろうか。仏陀は、自からは既に輪廻から解放された自由の境地にあつたと思われるが、大衆に対しては、大衆自身はまだまだ輪廻に束縛されているであろうことを前提として教説している。しかし素朴な意味での過去や、未来を考えて地獄極楽を想定するが如き、そして因果応報によつて他の「生」に生まれるといったような転生説は仏教の本質であるのか。或時代の社会条件を背景として生れた思想は、社会的条件の変化とともにその基盤を失うことは当然である。従つて仏教の「心」に関する見解にしても、少くとも二千五百年間、少しも変わらないとは言えないであらう。しかしともあれ、過去、


現在、未来にわたつて、人間の存在の本質を苦悩に求め、その根拠を欲望に見出し、その苦悩を超越することを教えた宗教であることは間違ひはなさそうである。そして苦悩超越の道として八正道を規定しているが、正しい見解、正しい決意、正しい言葉、正しい行為、正しい生活、正しい努力、正しい思念、正しい瞑想、この八つの部分はもちろん精神活動を根幹とする生活活動であるが、更に仏教はこのような人間の存在を構成する物質的、精神的要素を五種に分類し、色（物質的要素）受（外界から受ける感覚）想（外界のものに対する心理的な知覚、表象）行（意志）識（対象を認識する精神活動）の五取蘊と称している。そして、これらの対象に接触して心の動きを媒介する機能を眼、耳、鼻、舌、身、意として挙げ、これらから感受することによつて欲望と執着を生じ、そこに人間の生存が起定され、誕生とそして老死の結果を生じるといふのである。なお、これら五蘊説や十二縁起説が結合して人間存在は、種々の条件（因縁）によつて成立し、条件によつて変化（無常）し、独立した存在性を持つことなく（無我）ただその存在は相互に依存するのみであるとする。またこうした思想は、如来蔵縁起、阿頼耶識縁起、法界縁起、六大縁起説等を生み、般若思想なども相互にからみ合つて若干のニュアンスの異なる見解となつてはいるが、根本的には人間存在は苦悩であり、苦悩の原因は欲望であ

ると見る点では一致しているように思われる。このように見て来ると、仏教における精神を含めての「心の座」は六器官を媒介的機能として挙げてはいるが、キリスト教などが許容する靈気などという得体の知れないものは認めていないし、五行説のように身体諸器官に固定しては考えていないのが特徴のように思われる。仏陀が説明することを拒んだ形而上学的な四つの問題、一、宇宙は永遠か否か、二、宇宙は有限か無限か、三、靈魂と肉体とは同一か否か、四、如来（すでに解脱したもの）は死後存続するか否かというものがある。このことについては色々な解釈があつてその真意を知る由もない。（続）（全仏文化専門委員長）

全仏推奨 安全焼香台 (屋内用)
線香(ローソク)完全燃焼器 (墓地用)
お寺を火災から守りましょう!!

線香(ローソク)完全燃焼器(墓地用)でお寺も檀家もみんな揃って安心! 安全焼香台(屋内用)もあります。

製法 実用新案公告 34188号
製品 実用新案特許 出願受付 昭46-92325号
ご一報下されば直ちにカタログを送付致します
特約店募集中
(〒460) 名古屋市中区大須三丁目39番33号

全仏総発売元  台資会社 梅金商店
TEL 名古屋<052>241-0901代

影印本

秘蔵・韓国々宝を初めて全巻刊行！

世界各国より度々出版を試み許可されなかつた韓国海印寺秘蔵の高麗大藏經の経板、八万余枚の影印製本を可能とした仏教学界の至宝です。

高麗大藏經

寺宝に／学究の座右に／寺院の寄贈に…

- 七百余年を経た古典
- 超宗派の原典
- 世界唯一の経板による
- 全四十五卷・完璧な集録
- 写影であるから一字一句誤りがない

(造本・体裁)

縦 37cm 厚さ 7cm
 横 27cm 重さ 7kg
 平均 1,150ページ

(ご要望に応じ、カタログをご送付致します)

アジア文化事業株式会社

東京都新宿区西新宿8-3-31 / TEL (03)371-0125~6

昭和四十七年十月一日発行

発行人 麻布照海 編集人 岩脇宏信

発行人 財団法人 全日本仏教会